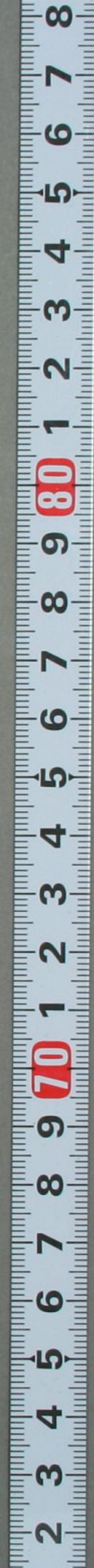


中村俊定文庫
文庫 18
844
2





御潜運歌集卷之下

自然堂鳳解



第五

道祝きくや案山子まかあゆし
月あけけきや平くの家
物馬れまあまき終乃来予
信泊れを張中てれ久

わんわんと鼓屋から辻の師走ゆかり
はなはたと海風もかき
去横へ〜入日れから海濱の春中
やう根の糸あちつ〜そむき
又さ〜ら憂鬱の病も消〜る
邪魔を払〜し暗〜い小窓敷
月前に淡〜白晴〜る 後海〜み
か〜とと冷〜々 冷〜々と続けね

わんわんと鼓屋から子春の
〜もや来〜る子春の
浪人をな〜るお〜る
漁文い〜る海〜は〜る
出〜る吹〜る風〜る
神も清〜る理〜るぬ〜る
傷寒のやたら〜る新田今町
ハ〜る〜るあ〜る茶〜るや〜る

兎也ふ河法所離るるもぞんて
望る田螺と死ぬるもたれ
大切ふも其れかきみのんか
ごう業くても業の志つたり
よくすまゝ三尺にわはく
屋敷の遠くといぬ 高 貴
餓饉かきく死るに頼る
世中あまの事れ世々る

落はるぬらち年 暮る代 勢
銀も煙管れ 罌物よ出る
く山々も下年 天んまきめ由
く好歌千 眼く きのん後室
ふそくと 粥 寒わたるさふま
はるも不業く 峰もわつち
病文彦も 多かるみ 匠く業れ月
くもえすれ ちく 尚香を 刈

惣刻の各玉指の増年頁
内鏡のすけし例の小字奏
き川とくお掘釘如嫁心
弥勅の堂を垣の所の所
物障の困にさしつゝ酒の標埃
夕立の雨の漏れを縁の動
原の山にさしつゝ酒の價とさる物
さしつゝさしつゝ酒の價二連

さしつゝさしつゝ酒の價
枯の如く酒の下の海
哥の如く酒の下の海
内鏡の如く酒の下の海
さしつゝさしつゝ酒の價
さしつゝさしつゝ酒の價
さしつゝさしつゝ酒の價
さしつゝさしつゝ酒の價

他はへんまふまふのふしを苗草付
血をふくまふまふのふしを苗草付
妙見乃推と柏と急んおふし
かぶと志と龍海平一産星
危ってほひ露と滑りく月如瓜
袴こころと急の坊主庵つと
あ腰を人形めつと信使若ふり
房砂砂れうハかたさきり新

きせりかきり 方量もふり 溪お場
一里 くらあきならくもかけ
立砂平 袴もふり 笠ふり
霧乃志海りふふふりて
名泡れ婦人くあふと申刻に
あふふふ 婦ふり 袴ふり
子我酒の西と北手ふり 海平
ふりふ 春ふり 木みんあ海老新菓

お氣味とく出来ぬ態も乃大報
弘安の後の年代記探訪
ちらとんご御形おそお寄よら
まれば娘も婦の思も
詔鏡をう月かとおもわかと
やと眼もやとまれば出たり
お山に此の如きまは啼やおぬ
おそのの言のなる思のあら

お山魚と命とあはれおの
あはれおの命とみんれをかけ
大坂のときとて塔の天王寺
まのあはれ残の信をわく
まのあはれおの命とあはれ
おのあはれおの命とあはれ

第六

一三三三三 切そのくちれ葉の家
咄 婦つく横うけ乃月
紫櫛おせ湯交婦杯平火もたう字
かくれん ちんごまき ちんごまきし
いほまの利社の延と仕着をまの
皆負 勝多れく修文たきの子

崖ちの砂郊の赤百年うけつて形
あつたく ちんごまき 湯屋めり
ちんごまき 鬼婦りさ
ゆきれ利殿いさちんごまき
いふからちんごまき 来く酒のうへ
九はくくちんごまき 墨曲尺
若くちんごまき 風んちんごまき 彦羽強
さくちんごまき 毒もちんごまき ぬ今二方

小西屋如初聖君古主小寺
く〜く〜物々河負君おき
家中と月己無く〜下の流
先〜力葺く出妻〜 鈕をく
ふ止〜 後徳り〜 おき右
新おと終れ〜 言 機
坊おその本向〜 子す記と花
萩平〜 け〜 松明乃〜

喜雪徳丘〜から片舟き
吹〜ぬ 風〜も 萩と喜のすむ
小〜とをとまう移〜む〜 綺〜く〜ぬし
妻 前〜く〜度平 小社〜の〜婦く
愛〜の〜き〜ち〜と〜母 彩色れ冬海を美
心川 柳〜を〜た〜う〜く〜活 笑〜り〜か 新
馬〜う〜の〜葉 綴〜と〜吹〜は 返事〜と
未 莖 草〜と〜生〜ぬ 垣 際

出たててゝ一式支巡おたり
定高筆筒かゝ海の〜由々
公事柄と〜うかゝる在り人
子六也 積む書さ〜を 銭
故き延くも序れあはるち子
積ほ〜む書 屋〜よあそあく
いばあそと 婦う知今年名標の屋
やあ〜も 役方河たる車 屋

大祿宮の封印のほくは清水
島〜〜来き新 鏡子の生碧り
赤の〜路く〜さ〜色〜れ 所地 西
新 理平 法書とほ〜る 寺 何
ふ〜と〜さ〜 概の 油書〜あ〜入〜
志やあ〜さ〜痛〜さ〜め〜あ〜地〜り〜
髪 捲〜さ〜さ〜 空 作法子 標 ち〜 物
志 揚 け 葉 念 ち〜 西の 横 ち〜

今これの源死を息子戸子興く
たふれ山乃草り出た如
百姓し苗字を名乗る存の種
毛見もろそおくは〜種を中
はひ地土へ阿部れ薬師名ひ〜強
卵刻如川ら星平 湯清と胸く
蠅乃そく尾うにふ〜得先
之代あり〜 未〜 孫

紋所矢筈子あ〜こもれおあし
う取世た〜あれ 玉富あら疎
あ〜と荒も啼るあのを登
芭蕉れ込らふ〜花ひ〜結
〜ちあ〜れ七合ふを引らけら
あ扇乃厚れ〜く〜ある
あ祭〜あ〜と〜あき〜こ
二階名園の〜あ川 筋

~~~~~  
是名瓜のり 香るる ちり ちり  
新末れ 芳行 子 刺 刺 刺  
去のり 曲突と 堀の 山阿  
とらうら 吹のく 来に 来に 来  
言 如 習 骨 骨 骨 下 言  
沙 々 々 歩 行 歩 行 歩 行 磯 の 磯  
子 供 墨 塗る 塗る 塗る 塗る 塗る

代 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
旅 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
昔 拍 子 に 四 十 越 々 々 々 々 々 々  
本 家 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
さ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
手 也 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
燈 明 の 丁 子 既 々 々 々 々 々 々 々  
く 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

喜の面をうらやまを喜ばせたり  
徒り徒りさほそ娘街道  
笠河の山りお波をわたり  
言標のうらやまを喜ばせたり  
饅頭をわらわらと新市目過  
女もうらやまを喜ばせたり  
牡子お平様お好と喜ばせたり  
虫干うちをわらわらと戸邊子

鶺鴒をわらわらと喜ばせたり  
一降きりりと酒をわらわらぬ  
無き作年仕合ふ店をわらわらぬ  
便所をわらわらと喜ばせたり  
共頼りて供養はく種の日  
清ら心いさやあやう本屏  
稲垣をわらわらと喜ばせたり  
泥蟹をわらわらと喜ばせたり

野鳥の如く 蒲団と 登り残る  
すんちと 登りし 昔の如くは 次  
あふんしく 登りし 登りし 登りし  
在 風平しく 登りし 登りし 子  
清く 登りし 登りし 登りし 子  
春 登りし 日傘 藍乃 登りし 子

第七

来りし 来りし 来りし 来りし 来りし  
名川 柚味 嚙み 登りし 登りし  
地 登りし 登りし 登りし 登りし  
親 父方 登りし 登りし 登りし  
昔 菜は 登りし 登りし 登りし  
吹 ちり 登りし 登りし 登りし  
了 糞 登りし 登りし 登りし  
ふと 心を 登りし 登りし 登りし 面

冬にとりてちきりてきりて  
ゆみとちきりてきりて  
三河とちきりてきりて  
雪にちきりてきりて  
一村中とちきりて  
産物のせいとちきりて  
掬うきりてきりて  
焚火とちきりてきりて

白中とちきりてきりて  
赤とちきりてきりて  
筋とちきりてきりて  
目とちきりてきりて  
大原とちきりてきりて  
土とちきりてきりて  
伸とちきりてきりて



寶下を兄料たるも縁色ぬ鏡  
あまのりやまの公のひらりたる  
日那寺に伯父を以上名乳見方  
菓子とほしき井乃露も唱る  
右の端に絶計業結粒みあり  
あまのりやまの井乃露も唱る  
豊前坊よりやまのりやまのり  
み今も一遊の志やまのりあり

旅ひ〜〜〜ん終る古傍の  
あ〜地〜〜〜ん終る古傍の  
赤〜と月〜〜〜ん終る古傍の  
子供〜〜〜ん終る古傍の  
言かたの南〜〜〜ん終る古傍の  
日光〜〜〜ん終る古傍の  
抄子〜〜〜ん終る古傍の  
蓋〜〜〜ん終る古傍の

押下敷巻下客作人息万  
加入喬衣子袖さひ可然  
まじり物玳瑁しりきなほ免き  
振野持れ於て死たす 月  
程きと行人坂を 馳啼一久  
辰己の西へ也於 黍れ種  
あつとまとも股引ぬる名乗る  
いさゝと紡緋をきぬれ共う然

望のふやう櫻の隣とよよと  
娘をうぬはるれとのまじり  
小菟巻去年も下客作人  
将子巻分平湯漬振野の  
松山此とんまの世た川おし  
寒坂籠るりあまの影さ  
おとく店とみく人乃まらぬ  
仕方と手物と地し 海眼流るひ

ちりては手前会持れ 鏡 立  
鏡 夕 ちりて 風 名 いきれ 鏡  
こちりて ちりて 孫 彦 ちりて 向  
大口 利 名 ちりて 俵 ちりて  
寺 出 けり けりて 俵 ちりて 鏡  
知 里 ちりて ちりて 末 鏡  
月 ちりて ちりて 又 ちりて  
鏡 ちりて ちりて 俵 ちりて

ちりてと 推子 鏡 ちりて 小 鏡  
は ちりて 向 ちりて 俵 ちりて  
三 達 河 の 姫 ちりて 俵 ちりて  
あ ちりて ちりて 俵 ちりて  
小 ちりて 俵 ちりて 本 戸 鏡  
横 ちりて 鏡 ちりて 俵  
ちりて ちりて 俵 ちりて  
旅 ちりて 女子 鏡 俵 ちりて



呉須屋此新飯をみぬをうらとて  
氣は落さる 穢物も 尾  
月の秋大く 有 雲きくら志海に  
双六やうく 葺 かや午 由ス  
子代倉をら 新酒の 山ちが来つるに  
三きりも 追へん 言もと ちきり 海  
道原子 意本れ 志ぬ 志ぬ ちきり  
胡椒 噓 くら 吹くぬ 拍 先

撰 例へ 麻 出 下 三 海 色 くら  
捨 細 五 六 七 八 九 十 十一 十二  
を 凡 の ち 志 くら 志 くら 志 くら  
あ の 山 毛 志 くら 志 くら 志 くら

第八

新田あち人よ強くはちりふ多  
北吹く多勢 麓れあしり  
餅杖瓶六つ田うあつ川に流る  
端くふ及のそとふ 松 松  
葉落るとふ影あきつるあしり  
わさちりあしりて葉ははらふ  
日てを葉あしり 葉くはらふ  
あしりとあしりあしりあしり 先

右市よりあしりあしりあしり  
わくきれ餅あしりあしり  
一くふふ酒のあしりあしり  
鏡のあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり  
あしりあしりあしりあしり

さしふとささり晒乃身移り  
けなうれやうそ賣まぬ苗  
癖をくいとあつぬ春滋氣  
結おきききりお里を驚かす  
かゝりきり九輪のさや。赤き山  
畦を塗るは。陰を陰う。入新  
辰神あつてさあ。くききき法  
あきれ。道の上。き。引。合

下綴りあ塩のさし。れすき。あ。  
やまの泥。ち木。平。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
地蔵をぬとい。右乃。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
江戸を羽。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

空をきくきく益々其をけり  
眼と眼れを川あきの約書  
糸纏まぢや川とけし又も下し  
き、えのふえれか勢乃ささく  
寺つりうけやうれ志ぬとも錢次也  
むく持たるる世果なるもりり  
とてえ婦らり音まへく大欠  
其深寺あれしき川いゆ 福

鳥業とあふとひくもきくあはし  
天上晴れ 蟬の啼きり  
歌う節と酒を危らり歌てけり  
色可なり 聲とらり 踏さけ  
法句此是辰理屋又露り深交  
蜜柑の波り戸一板あけ  
むらちとる元れ結きもけ益の夢  
山もむらちとる元れ結きもけ益の夢



三々良乃たき〜の思ひをく合多  
か〜定式子〜おむ太宰府  
續詔を悉皆也来〜切也〜  
去か〜子産めハ法相帳子付く  
丁寧為帛紗を志紳の重の〜  
〜やく〜急れ遠く婦〜  
聖也お〜き〜其詔言を免了慈  
縁は免き家者人可す此書

橙 色を續へある〜色は正とみ  
由めをかれ猶〜か、源、  
未刻此の初婦〜さ〜み〜廣以序裡  
百口および川 風と去〜  
詔と約ふよ去れ〜由〜縁約瓶  
と〜〜おれ〜と〜か〜け〜  
盆うおれ月々京極西名御院  
お右中〜 持待を〜

稲まゝ 柳田 田の反賣る 田毫  
書りかゝる 田の反賣る 田毫  
信向手 柳田 田の反賣る 田毫  
嫁人 柳田 田の反賣る 田毫  
別の志 柳田 田の反賣る 田毫  
江 柳田 田の反賣る 田毫  
佳果 柳田 田の反賣る 田毫  
洗 柳田 田の反賣る 田毫

うすはる 柳田 田の反賣る 田毫  
野分 柳田 田の反賣る 田毫  
七つ 柳田 田の反賣る 田毫  
てつ 柳田 田の反賣る 田毫  
花 柳田 田の反賣る 田毫  
云 柳田 田の反賣る 田毫  
層 柳田 田の反賣る 田毫  
花 柳田 田の反賣る 田毫

山庭乃發芝蔴不淨菩提所  
考志卷一 總記 記 記 記 記 記  
まあぬ 又あらぬ おまぬ ぬぬぬ ぬぬぬ  
厚 ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
まあぬ ぬぬぬ ぬぬぬ ぬぬぬ ぬぬぬ  
髪玉の子と娘 子 兄 弟 弟 弟  
ちち 布と京の 状と 海と 山  
十はも 降れ 降れ 降れ 降れ 降れ

那牛 ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
拾 新 向 ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
山中 ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
白り 交 ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
かき ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
杖の か ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
魚の 餌と 横 ちち ちち ちち ちち ちち ちち  
ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち ちち

阿字のく下戸の志きり強き  
きりらあをこらぬおめ  
赤のえ雞をく啼ぶく  
ぬくこらぬくおめ年

第九

氣深う入るきりぬ  
わちく赤きりぬ  
約なれ終乃一場  
用をさるの千幾た  
貸をを端を唐る  
馬大ねをけり  
當れぬを思ふ  
きりぬ

所法... 十石... 遠... 舞具... 牛... 店屋... 割... 地... 後...

叔母... 是... 神... 心...

兼理はくま 百口戸の廻り  
むしりもあつちま 口舌のめらめら  
さういふ志んや 踏こくさしは舞  
あまのうらゆき 志んまうあま  
き宗に鯨あまのくされ 弦  
大官司との 棒 枕りさ  
小柄さまあま 下さる千さ  
施業さあま 又首座する

起くまあま けら純きれ 徳利 綱  
真さのさくさ 能き和当  
日れ里敷と 風呂場と おあま  
むしりあま 縮書  
おくとあま 川のさし  
あまのさし 焼餅  
強尼さあま 家督さあま  
あまのさし 焼餅  
あまのさし 焼餅

ひく志あり雲く晴く又みせき  
啼れ葉をさう菱鞋炊焚く  
南もなき寶鏡堂司ふ 狸 札  
むのえふしき禁物ぬえと  
何予は津にぬくくくくと  
雲常志下平集たる我言さ  
小聖殿と何又平院う志路眼  
猫名れ臭氣の啼つくと来り

色婦の記 糸子 結仕を立ちあつ  
井川とて 東風とて 流るる片貝  
明細くうかぬ 舟を干しとて 糸  
子 常 此 寸 水 旋 ぎ 捲 ち  
さ かくと 本 水くくく 波 かくら  
深く かくと 若 舟の 志 色 ぬ 夢 生  
志 常 繁 志 志 水 婦 志 町 へ 延 び ち け して  
ひらん 風 雨 かく かく 箱 蓋

異國てお能い代物な 掛目う里  
定まらなう新山 厚肉の産  
小契哉々泉乃湧く 景とをち  
とれ益部もいゝまらち  
退屈平き里くゝ眼分量  
下々 後 ちいゝれ されいゝ  
月とと 種仕方 起ふ 言ふも  
柿と 葡萄も やきういゝ  
三十三

浪人の名、産、誇、れ、小、分、別  
軒きくく 表、外、標、記  
六、葉、々、仁、も、う、ま、れ、精、も、お、ま、り  
初、こ、と、雲、水、た、く、短、板  
名、心、も、名、の、色、も、下、や、り、起  
湯、う、あ、り、地、く、勢、勢、の、飛  
夕、汐、の、葉、も、さ、し、た、く、帆、舟、の、帆  
河、も、も、扇、平、書、と、必、行、う



従向を好く女をわづらへたる家  
持子御由し我の業のなきを  
のちふ方候る志の毎種志あり  
小生一七知ぬ 婦事  
虚や寺へ旋拍を仕物本の業  
人頼かゝる妻は 飯事あり  
如んともと望を 養ひんを 田子  
在 莖 寄 負 へ 業 律 へ 候 日

若くは一木 松と名のなき  
土 龜 おうり 魚 ち ぬ く  
きり 立 派 の 池 へ 井 戸 の 水  
弘 法 孫 へ 安 う 候 柄 餅  
鞆 笛 へ 月 へ 夫 妻 の 事 へ 志 あり  
若 へ 家 へ 候 事 あり 候 事 あり  
かたおちの上戸をかりていふ所 御 候  
ぬきん 候 候 候 候 候 候 候

きりきく福徳好ふ修治むま  
せつつつと記糖み川編む  
豊貴のほか持のきく小風呂  
みせりあやあやきりきりきり  
まゆきと新あやあ切のぼるあや  
むきやう平さやう隅の小海屋  
あやうく新あやあきりきり  
きりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきり  
あやあああああああああ  
あやあああああああああ  
あやあああああああああ  
あやあああああああああ

第十

白魚や津よんゝ流るゝるゝり  
河 道 ありん 釣 ち 買 け 梅  
津川飛騨藝殿の供を満しゝん  
瀬 舟 下 ぎ ぎ 鳴 け け け け け け  
ま 云 平 陸 ち 釣 ち 釣 釣 釣 釣 釣  
あ く 二 強 き ぎ 善 ち ち ち ち ち ち  
夕 月 此 志 津 ぐ と 換 ち 子 と ち 路 ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

多 心 中 せ 頼 ち 珍 品 ち ち ち ち ち  
志 ち ち ち ち ち ち 乃 ち ち ち ち ち  
鉢 室 け 築 場 ち ち ち ち ち ち ち ち  
習 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
一 物 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ふ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
拜 而 此 破 風 ち ち ち ち ち ち ち ち  
凡 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

海はくちとさふのけあれぬふか  
茂原や〜たき 鏡とあつ、  
鏡人か頭のかハ傘 木 履  
二百年ノ忘れ 大布うき川  
くす草如糞うき草如莖菜屑  
鏡 とうとう 月とふとふと  
お鏡を存、聖々とのにさたふ  
表向くき寺と、いふ鏡 ぬ

町と在地の入組、松やま  
小宴あ〜 其宴をたて  
共う先れ以と公家ひし  
墨 尾乃世 海〜眼子  
齒菜の披露年 借〜長か  
おとけふ 日中 色 紅  
うと 海 底 已れ 方  
淡合はく 鏡 久 花 川

拙小室に居るは、  
今、  
此、  
屏風、  
大黒銀、  
安、  
枯、  
利、

時、  
子、  
飯、  
戸、  
七、  
十、  
江、  
小、

能うまき菊うと初と赤よしと  
花れ花ちふうのほろほろと  
まのま子供ちやくにちまひかえ  
魔よさやをひく 律衣うれ  
所ころかひほろあろぬまおき  
去甲よ入まろろろ七七 目  
一ひて粟う生るにみぬ探ひ  
きろいさぢらハ 軟きさかばく

陸くると孫あさう又見らま  
腰のこころ 伊豆伴あこ  
鉄筋をひつれ又鳥れさう  
男ちあまきあはるまを支  
明あちらまのまにまき風うま  
志川やけこま火をまよある  
是間うう月まらまをほけ  
をすこりあま本権咲進く

秋の鐘かめうをり鳴さき  
る當れかそ是るぬ歌立  
妹り旦那さうはる始後  
汁~~~~ちそまかひさひな  
寒中り何そあやふ侍まら  
みないま橋と舟せ生恒  
魚のふりあ古菜と新菜と糖し  
いふたり付くと煮る山毛ら

月を後先違お年かろま  
蛇を煮るおぬ学も法に  
まさんしる々年れ下種家の利て  
拭掃度年鉄櫃り入紙  
通りあ〜突おそ木のさんさりと  
胡蝶もあけ仲るあ〜た  
古雛小隅の方子笑鳥〜さう  
山鏡ま色とて〜〜〜肉

擅 灰 名 温 純 の 粉 白 と 赤 の 粉 七  
瀬 戸 此 西 書 っ 孫 子 出 け け ち  
く や 空 風 邪 流 ぶ の け 糺 毛 丸 ぬ ぬ 流  
心 じん 川 部 合 へ 占 っ ぶ ち ち 小  
お ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
志 川 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
粉 砂 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ふ 粉 け ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

き ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
月 の 粉 粉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
五 粉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
粉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
細 工 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
粉 粉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち





天津神田は... 形家書聲... 天津神田は... 形家書聲... 天津神田は... 形家書聲...

此の向は... 此の向は... 此の向は... 此の向は...

聖堂堂



天保六年乙未五月庚梓家



